

「林 恒男先生 定年記念論文集」

刊行によせて

林 恒男先生を経済学部にお迎えいたしましたのは、同志社大学が戦後新制大学として再出発し、経済学部が法学部から独立した昭和23年4月でした。それ以来、先生は36年間の長きにわたって変革期の経済学部とともに歩まれ、教育と研究に尽くされ、本年1月14日めでたく65回目の誕生日を健やかにお迎えになりました。先生はこれまでご病気のため、何度か休職されていただけに、ことのほかめでたく、私ども一同衷心よりお祝い申し上げたいと存じます。

同志社大学経済学会はその祝意と、本年3月31日をもって定年に達せられる先生への謝意をこめて、「林 恒男先生定年記念論文集」を刊行し、先生に捧げることになりました。

林 先生のご経歴やお人柄について、島 一郎教授がこの記念論文集の最後に詳述されておられるように、先生は助手から専任講師へと順調に研究を進めておられた矢先に、ご病気再発のために休職されました。このことは研究者として無念の一言に尽きる不幸な出来事であったといわねばなりません。その後も何度か休職を繰り返され、やむなく教育と研究を中断されたときの精神的苦悩は計り知れないものがあったに違いない、と推察いたします。

けれども、先生はいつお会いしても、そのことを口にされたことはなく、常に温顔から微笑を浮かべてお話をされました。先生のお人柄が偲ばれる一面と申せましょう。

先生はこうした苦境を乗り越えられ、最後まで教育者・研究者としての責任を果たそうと努力されました。まさに、良心を手腕に運用され、経済学部のために尽くされた先生に満腔の敬意と謝意を表したいと存じます。

ところで、先生は本年3月定年退職され、経済学部を去られます。会うは別

れの初め、と申しますものの、これからは教授会でお目にかかることもなくなるかと思えますと、教え子の一人として惜別の情禁じえないものがございます。ただ、先生は近年とみにご健康を回復されました。このことは私どもにとりまして何ものにも勝る慰めでございます。

今後とも、ご健康には特に留意されまして、平安の日々を送られますよう心から祈念いたします。

1984年1月

経済学部長 渡 辺 弘